

平成28年度福岡市小図研 5月定例会記録

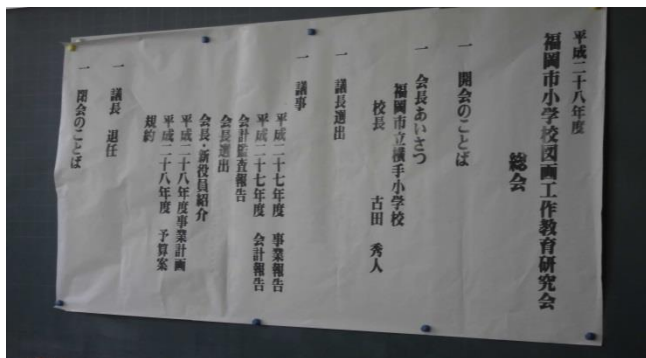
文責：田中夕子（和白小）

5月定例会の内容

日時：平成28年5月28日（土）
13:00～16:30
場所：福岡市立横手小学校図工室
内容：総会
実技研修
「クロッキーを通して人体の成り立ちを知る」
日展作家 田中一利先生
授業研究部会①
参加者：○名（これが大事）

総会

横手小学校にて、福岡市小学校図画工作教育研究会総会が行われました。古田会長のごあいさつに続き、事業報告、会計報告、役員紹介などが行われました。



実技研修

「クロッキーを通して人体の成り立ちを知る」

講師：日展作家 田中一利先生

「クロッキー」…フランス語で「線描」の意。
人体の成り立ちを知り、部位の組み立てを学ぶことができる。人体を量の塊としてとらえ、構成し、全体像をつかむために、重要。小学校の授業の中でなくなりつつあるようだが、これが基本。物が「見える」ということは大事なことで、やっけていて損はない。顔の中身（目鼻）から描き始めると、似ている似ていないに走りがちになるのでよくない。小学校の子どもたちに、正しい指導をしていってほしい。

○色について

絵は、色と形で成り立つ。「わあきれいだ」とまず入ってくるのは、色。…色を大切に。小学校の子どもたちに、正しい指導をしていってほしい。

「12色、言えますか？」…12色相環

白と黒は、色ではない。（明るさを示すもの）
補色…色相環の向かい側にある色、混ぜると灰色（12補色色相環）

水色、空色、ねずみ色…物の名前を言っている。正式名称ではない。
例）本当は様々な色

何色と何色を混ぜると、あの色が出せるかわかるようになれば、自分のほしい色を作り出せる。原色だけでも良いが、色は無限にあり、自分のほしい色を自在に使えることができれば素晴らしい。



○クロッキー

「ではやってみましょう」まずは、今までやってきたやり方で。(①10分間でチャレンジ)

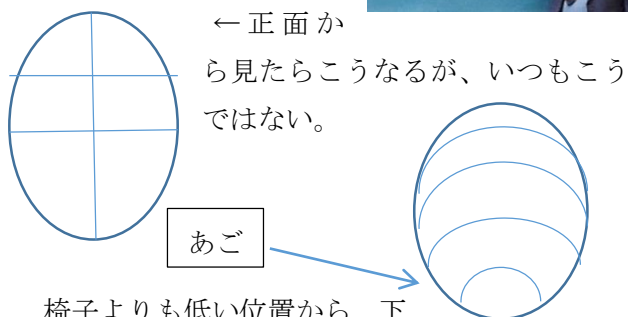
正面からは難しい。お尻から膝までの距離感が表しにくい。



次は、時間を短く。(②5分間でチャレンジ)
10分でも長い。1分でもよいくらい。

解剖学的事実を知っていた方が形になりやすい。「西洋の人は、顔が小さい？」違うのは頭の形。

目の高さがどこにあるか？など。



椅子よりも低い位置から、下から見上げる場合は、下の面が見えてくる。ここを描けると、立体的に見える。

頭を描くときに、髪の毛なしで考えなければならぬ。頭の半分のところに目がある。

頭の○の中に、髪の毛を描いてしまうと、解剖学的に正しくない。髪の毛が、頭の中にめり込ん



でしまう。髪の毛は頭の上に生えている。

ひじから手首までの長さ、足の長さはほぼ同じ。膝下は、前部と後部とでは筋肉の付き方が違う。



短時間で全体像をつかみ、描くためには、骨組み、中身を知ることが大事。それの上に、肉がどうついている

るか？その上に服がある。シルエットとして見る。

次は、短時間で見る。

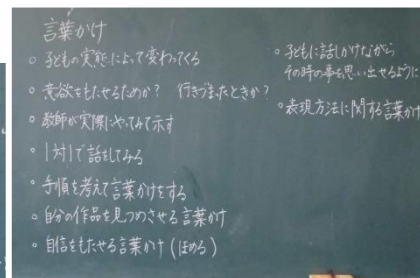
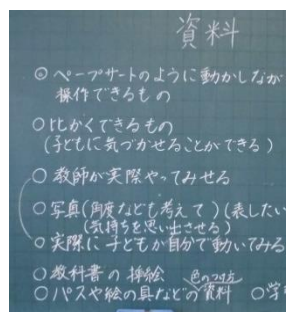
(③1分間でチャレンジ)
目と手をつなぐ。見ているものを描けるように。見えないから描けない。見えるようになったら描けるようになる。



○立体感を光の当たり方で表すことについて。一番暗く見えるところはどこか見る。例) 小磯良平 (④1分間⑤1分間⑥3分間) クロッキー実技

良いところを見つけてはめる。絵に正解は無い。好きにさせることが大事。

授業研究部会



どのような資料をどのように提示したらよいか、全体、または子に応じた言葉かけをどのようにするかについて、自分たちの経験をもとに、良かったこと、悩んでいることなど幅広く話し合いました。

学年部ごとで、授業者が決定しました。

低学年部 (当仁小1年: 後藤由加里先生)

中学年部 (飯倉中央小3年: 吉村亜希子先生)

高学年部 (和白小5年: 山口亮大先生)